

学校名	山口県立岩国高等学校
-----	------------

## 1 学校の概要

校長名	中村 芳喜	児童・生徒数	本校 953 坂上分校 82 広瀬分校 59	学級数	24 3 3	教職員数	78 13 12
教育目標	1 授業力の向上（集中力の高まる授業、学力のつく授業、意欲のわく授業の創造） 2 自主性を育む生徒指導の充実（挨拶、時間厳守や服装・生活態度を自ら考え改善できる指導） 3 組織力の強化（全校協働体制の確立、分掌間の連携、業務の集中化の改善） 4 広報活動の充実（岩高の良さを地域や中学校へ発信、中高連携）						
学校の状況	平成22年度で創立130周年を迎えた伝統校であり、文武両道を校風としている。県内有数の進学校であり、また部活動でも多く実績をあげている。平成20年4月に、坂上分校、広瀬分校が開校した。						
SWOT分析による長所・短所	<b>【長所】</b> ○ 校務分掌は主任のリーダーシップのもと良くまとまっている。 ○ 教員に生徒の学力向上等に対する意欲がある。 ○ 諸会議等は頻繁に開催されている。 ○ PTA活動が盛んで協力的である。 <b>【短所】</b> ○ 教員の業務量に偏りがある。 ○ 分掌間の連絡調整が不十分な時がある。 ○ 学年間の情報交換、情報継承が不十分である。 ○ 本校と分校間の交流が少ない。						
研究テーマ	本校と分校の連携による円滑な校務運営						

## 2 1年間の実践研究の取組状況

6月	本・分校組織運営会議 SWOT分析による組織運営の分析 校内運営改善会議
7月	本・分校組織運営会議
8月	本・分校組織運営会議
9月	校内運営改善会議 他県視察復命会
10月	本・分校組織運営会議
11月	校内運営改善会議 本・分校組織運営会議 中間総括会
12月	本・分校組織運営会議
1月	本・分校組織運営会議 実践研究総括会
2月	本・分校組織運営会議
3月	本・分校組織運営会議 拡大組織改善会議

### 3 実践研究の内容と成果

#### (1) 組織力の強化に係る取組

##### ア 本校複数教頭、分校各教頭の位置付けと役割分担の明確化

(ア) 本校第一教頭による中心的業務と情報の一本化

- 本・分校4人の教頭の中で、本校第一教頭を総括教頭として位置付け、中心的業務を分担した。
- 本・分校関連文書の作成や行事、会議等の日程調整は総括教頭が集約・作成する。
- 総括教頭が本・分校間の連携業務の計画作成と連絡を行う。
- 危機管理等においては、総括教頭も分校で分校教頭の補佐として、実務を行う。
- 本校内における第一教頭と第二教頭の業務は、分掌学年分担方式で担当した。

(イ) 教頭による本・分校の校務分掌の横割り担当制

- 進路や学力検査等の業務について、業務ごとに一人の教頭が本・分校の関連校務分掌や担当者連絡等を受け持ち、事務内容について本・分校全部の調整・指示を行う。
- 校務分掌受け持ちについては、教頭の特性を生かした分担となるよう配慮する。

##### イ 円滑な課題解決のための大規模校における組織づくり

(ア) 教科チーフ、学年チーフ制による協議

- 教科主任や学年主任と異なったチーフと呼ぶ教員を、各教科、各学年に置き、定期的に進学等に関する情報交換会議を行った。
- チーフは連絡係として活動するだけでなく、進学指導についての改善協議等も実施する。
- チーフ会議での内容は、各教科会や学年会に報告、協議される。

(イ) 組織改善プロジェクト会議、学力向上プロジェクト会議

- 各分掌や教科等の代表による、業務改善の発案機関として、プロジェクト会議を実施した。
- 二つのプロジェクトの委員は、多くの教員が参加できるように、できるだけ重複しないように選出している。
- プロジェクトの提案事項は、教育活動の中に積極的に取り入れるよう配慮している。

(ウ) 企画委員会

- 学校運営に係る方向性を検討するために、管理職と4名の分掌の長による会議を実施した。
- 会議は不定期であり、必要に応じて開催する。

##### ウ ミドルリーダー育成のための工夫

(ア) 他校訪問等の外部での研修

- 他校訪問等外部での研修においては、中堅の位置にある教員を派遣するようにした。
- 今後の校務分掌等の編成を考慮して、適切な人選で、計画的に派遣するようにしている。
- 報告書の作成と校内研修会等での復命を義務付けている。

(イ) 校務分掌内での適切な業務配置

- 中堅教員は、副部長や副部長に近い位置での業務を行うことができるポストに配置している。

(ウ) 管理職による個別指導

- 中堅教員には、管理職で個別に業務遂行について具体的に指導を行っている。

## 【成 果】

- 本・分校の学校運営を効率的かつ組織的に行うことができた。
  - ・計画的に運営することで、本・分校の特質を生かした取組や行事を進めることができた。
  - ・迅速な危機管理体制をとることができた。
- 本・分校間の分掌業務の連携が円滑になった。
  - ・特に、教育課程や生徒指導、推薦入試等での協議において効率化を図ることができた。
  - ・教頭の特性を生かした業務対応が可能になった。
- 教育活動について、教科間等の意思統一を図ることができた。
  - ・他の教科、学年と連携して、学校全体として活動を進めようという意識が高まった。
- 学校の改善に対して、参加意識が高まった。
  - ・自学自習の時間や早朝学習会等の新たな取組が提案され、実践に移されている。
  - ・多くの委員が協議し提案するため、取組にも積極的な姿勢で臨むようになった。
- 主要な検討事項を多角的に協議することができた。
  - ・必要な情報を効率的に入手することができた。
- 幅広い視点を持って業務に臨むことができた。
  - ・教育活動に関して工夫を行おうという意欲が高まっている。
  - ・校務分掌においてミドルリーダー役を適切に配置することができた。

## 【課 題】

- 第一教頭の権限の明確化
- 定期的な本・分校分掌会議の開催等による一層の連携強化
- 新たなプロジェクトの設定等の組織の柔軟な運営

## (2) ICTの活用等による情報共有、業務改善に係る取組

### ア 本校と分校の校務分掌等における連携や情報共有の在り方

#### (ア) 電子メールを活用した週単位での情報交換

- 本・分校の各教頭の大まかな動きを、電子メールにより相互把握した。
- 本・分校の校務分掌間の文書送付等、電子媒体が活用できるものは、電子メールで行う。

#### (イ) 定期的な業務調整会議の実施

- 本・分校の教頭で、定期的（月1～2回）に業務調整会議を本校で実施している。

### イ 校内における伝達事項の効果的な連絡

#### (ア) 共有フォルダの活用

- 学校のサーバ内に、教員用の共有フォルダを作成し、連絡物や各種様式等を載せている。

#### (イ) 個人ごとのフォルダの活用

- 学校のサーバ内に、各教員用フォルダを作成し、情報の保存等に活用している。
- 個人への連絡文書は、各人のフォルダに送るようにしており、それぞれがチェックし対応している。

## 【成 果】

- 行事設定や文書処理が効率的に実施できた。
  - ・会議運営や外部機関との協議等の対応が円滑となった。
  - ・校長や教頭不在時の緊急対応等において迅速な連携が図れた。
- 本・分校の教育活動の活性化を図ることができた。
  - ・本・分校間の運営委員会的な役割を持つことにより、それぞれの学校の教育活動の見直しができる。

- 全教員に対する効率的な伝達を図ることができた。
  - ・紙媒体の文書量を減らすことができた。
  - ・文書や伝達事項の重要度も示すことができ、各人のチェック漏れが減った。
- 個人個人へ確実に連絡・指示することができた。
  - ・文書紛失等もなく、対応も迅速にできた。

**【課題】**

- 本・分校間の簡便な掲示板等の伝達システムの検討
- 本・分校内イントラネットの構築等による情報管理の徹底
- 共有フォルダ等を活用した電子会議の研究

**(3) 地域やPTAとの連携、外部人材の活用に係る取組**

**ア 地域人材やOB、保護者が積極的に参画できる学校運営組織の在り方**

- (ア) 外部人材の確保のための本・分校共通人材バンクの構築
- 本・分校でそれぞれ講師等を依頼できる人材を記録し、共有する。
  - 同窓会やPTA関係の人材を相互に紹介する。
- (イ) PTAとの積極的な連携
- PTAと教員が共同で他校視察を行っている。
  - 文化祭等の学校行事へ積極的な参加を受けている。
  - 本・分校間の連携について、PTA新聞等でも協力を受けている。

**【成果】**

- 人材必要時の選考範囲が広がった。
  - ・進路講演会等、複数の人材が必要なときに効率的に依頼できる。
- 学校における教育活動が活性化した。
  - ・多様な提言を得ることで、教育活動改善の姿勢が積極的になった。

**【課題】**

- 本・分校の特色ある教育活動のそれぞれに対応した多様な人材の確保
- 進学指導等の新たな分野でのPTAとの連携の研究

**4 今後の取組内容**

[実践研究の成果・課題を受けて、今後継続的、発展的に取り組む内容や課題について]

- (1) 組織力の強化に係る取組
- 管理職の役割の再検討による本・分校間連携の一層の効率化
  - 諸会議の見直しと新たなプロジェクトの発足による業務の活性化
  - ミドルリーダーを生かすための校務分掌内ポストの創設
  - 実践的な取組に即した校内研修の工夫
- (2) ICTの活用等による情報共有、業務改善に係る取組
- 安全な本校・分校間連絡システムの構築
  - 校内電子情報連絡網の整備
- (3) 地域やPTAとの連携、外部人材の活用に係る取組
- 本・分校間の地域行事での交流促進
  - 他校と連携した地域人材リストの作成